

日西国交 400 年に際しスペインが選ぶ二つの現代リアリズム  
スペイン大使館にてロレンツォ・フェルナンデスが磯江毅画伯との二人展を開催

2014 年 9 月 2 日 (火) - 9 月 18 日(木)



「400 年/ 時を超えた出会い」



「メメント モリ」

このたびスペイン大使館におきまして、スペインの若手画家で私どもギャラリーためながの契約作家のロレンツォ・フェルナンデスが、故磯江毅画伯との二人展を開催する運びとなりました。

フェルナンデスは 1970 年スペイン、マドリッドに生まれ、14 歳から伝統的なスペインのバロック絵画技法を学び始めました。コンセプチュアル・アート（概念芸術）の第一人者であるペドロ・カルヴァンに師事し、やがて伝統性と現代性を併せ持つ独自の画風を築きあげていきました。2004 年パリでの初個展を開催以降、世界各国のアートフェアなどにも数多く参加するなど活躍目覚ましく、現代のスペインリアリズムを牽引するアーティストとしてその確かな実力に美術界の注目が集まっております。

フェルナンデス と磯江には、二つの重要な共通点があります。まずマドリッドで伝統絵画の研究を行ったこと。そして現代のスペイン・リアリズムを代表する画家としての地位を築いたことです。十数年の時差がありますが、奇しくも同じ土地で真のリアリズムの精神を追求することとなり、色調やモチーフの違いに影響されることのないリアリズムを創出させています。

例えば、驚異的なまでの精緻な筆致で映し出された静物画は、日常目にする何の変哲もないオブジェが意図的に選ばれ、構成されています。現実の再現を突きぬけ、現実を超越した神秘的な光がそそぐ崇高な世界は、二人の稀有な画家の作品がマドリッドという土地から生まれたことの何よりのあかしと言えましょう。

今展では、フェルナンデス、磯江、各約 20 点、計 40 点近くの作品を展覧致します。フェルナンデスは、折鶴、百円玉など、日本のモチーフを取り込んだ静物画や人物画を中心にご紹介します。この機会に、スペイン、日本の両国が育んだリアリズムの世界を是非ご堪能いただきたくご案内申し上げます。

スペイン大使館 東京都港区六本木 1-3-29.  
開館時間 10 時～17 時 ( 月曜から木曜 )  
          10 時～15 時 ( 金曜日 )  
          10 時～12 時 ( 最終日 )  
休館 土・日曜 及び 祝日

ギャラリーためなが  
東京都中央区銀座 7-5-4  
TEL:03-3573-5368  
広報担当:今井淳子  
[imai@tamenaga.com](mailto:imai@tamenaga.com)